
「在宅介護実態調査」

試行調査結果〔抜粋版〕

平成28年9月
厚生労働省

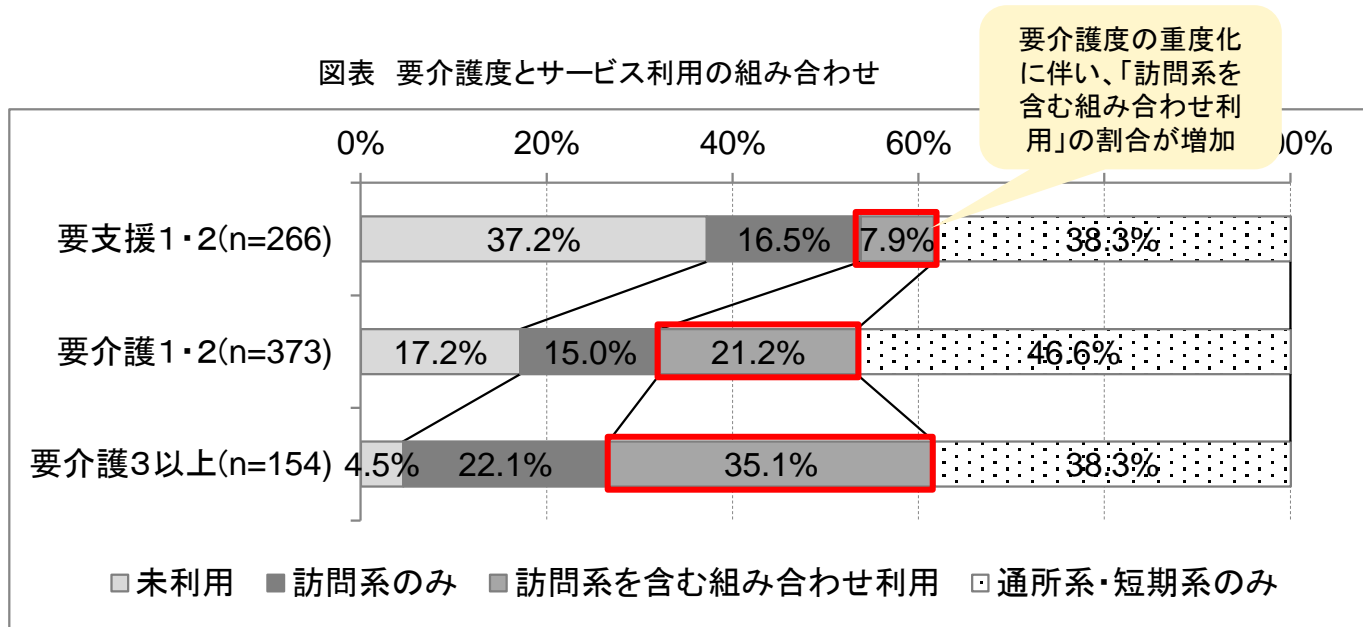
調査の実施概要

- 調査手法 : 認定調査員による聞き取り調査
- 対象地域 : 本試行調査は、稲城市（東京都）、大垣市（岐阜県）、秦野市（神奈川県）、八王子市（東京都）、府中市（広島県）、武蔵野市（東京都）、和光市（埼玉県）の7自治体で行った。
なお、集計結果は、7自治体の調査結果を全てまとめたもの。
- 回収票数 : 827票（※ただし、認定データと関連付けを行うことができた等、最終的な有効回答数は793票）
- 調査期間 : 平成28年6月の1か月間（※自治体ごとに調査期間は若干前後する）
- 調査対象 : 期間内に要支援・要介護認定の更新・区分変更申請に伴う認定調査を行った、居宅にお住まいの方（施設・居住系、入院を除く）
- 使用した調査票 : 介護保険最新情報（Vol.554）「「介護離職の観点も含めた介護サービスのあり方の把握方法等に関する調査研究事業」における試行調査について（情報提供）」参照

分析例1：在宅で生活をする、要介護度の高い人のサービス利用の特徴は？

要介護度の重度化に伴い、「訪問系」を組み合わせたサービス利用が増加

- 「要介護度」と「サービス利用の組み合わせ」の関係をみると、要介護度の重度化に伴い、「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ利用」の割合が増加している。
- 在宅で生活する要介護度の高い人については、「訪問系」を組み合わせたサービス利用割合が高いという特徴がみられる。



出典：在宅介護実態調査(試行)

〔用語〕

- ・「未利用」:「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」以外のサービスを利用していない方
- ・「訪問系」:(介護予防)訪問介護・(介護予防)訪問入浴介護・(介護予防)訪問看護・(介護予防)訪問リハビリテーション・(介護予防)居宅療養管理指導・夜間対応型訪問介護のいずれかを利用している方
- ・「通所系」:(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護のいずれかを利用している方
- ・「短期系」:(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護のいずれかを利用している方

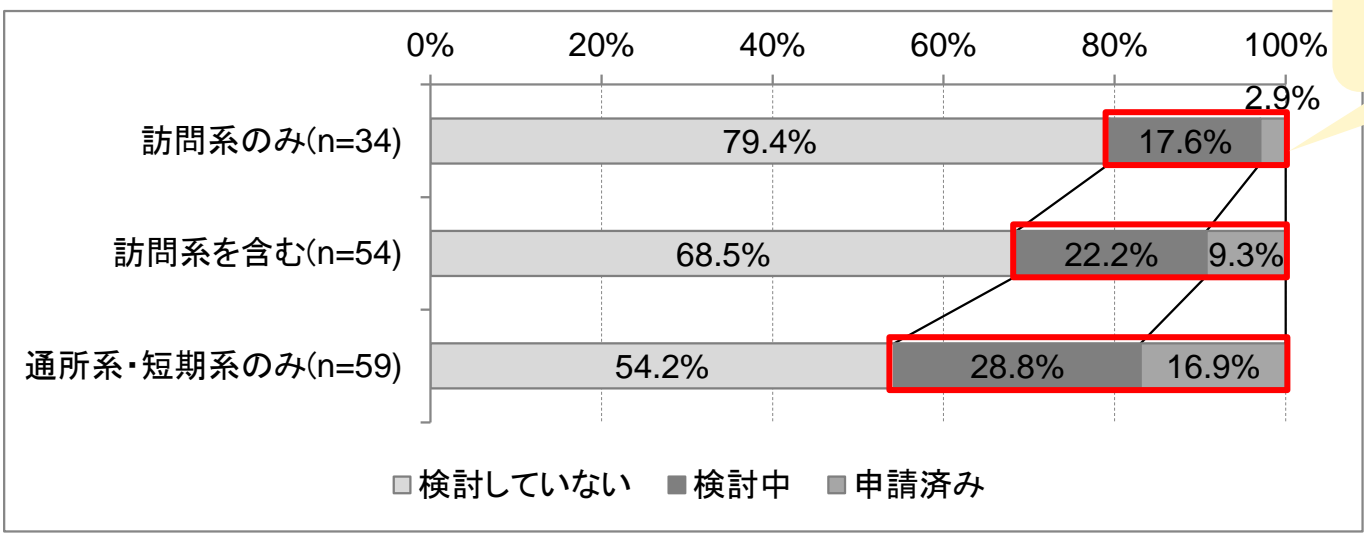
※「小規模多機能型居宅介護」・「看護小規模多機能型居宅介護」の利用者は、「訪問系を含む組み合わせ利用」に含めている。
 (試行調査の中では、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の利用者はゼロであった)

分析例2：要介護度が重度化しても、施設入所を検討していない人のサービス利用の特徴は？

「訪問系」サービスを利用する方は、「施設等の検討・申請割合」が低い

- 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係をみると、「訪問系のみ」⇒「訪問系を含む」⇒「通所系・短期系」の順番で、徐々に「検討中」・「申請済み」の割合が高まる傾向がみられた。
- 要介護度が重度化しても、施設等でなく「在宅で生活を継続できる」と考えている人は、訪問系サービスを利用している割合が高かった。

図表 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況 (要介護3以上)



訪問系サービスの利用により、施設等の検討・申請済み割合が低下

出典：在宅介護実態調査(試行)

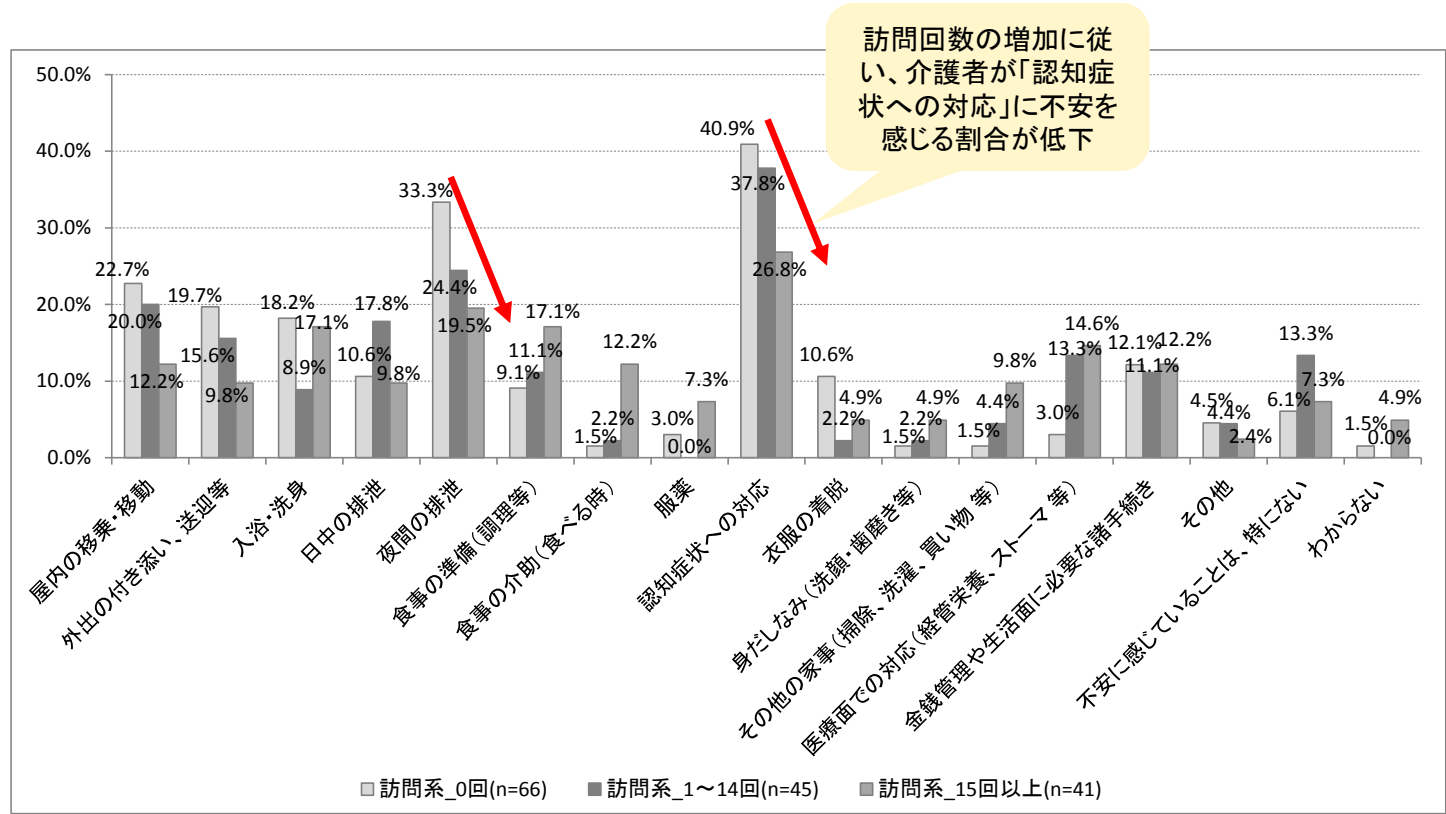
〔用語〕
 ※ 本集計・分析では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない(検討していない)」、「入所・入居を検討している(検討中)」、「すでに入所・入居申し込みをしている(申請済み)」の3つに分類して集計している。
 ※ なお、ここでの「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指すものであり、介護保険施設には限定していない。

分析例3：頻回な「訪問系」サービスの利用は、介護者の不安軽減につながる？

「訪問回数の増加」に伴い、介護者の「認知症状への対応」「夜間の排泄」の不安が軽減

- 在宅生活の継続に向けて、介護者が不安に感じている介護としては、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」が高い傾向がみられる。
- 「介護者が不安に感じる介護」と「訪問系サービスの利用回数」の関係をみると、訪問系サービスの利用回数の増加とともに、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」について、介護者の不安が軽減する傾向がみられる。

図表 サービス利用回数と介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



訪問回数の増加に従い、介護者が「認知症状への対応」に不安を感じる割合が低下

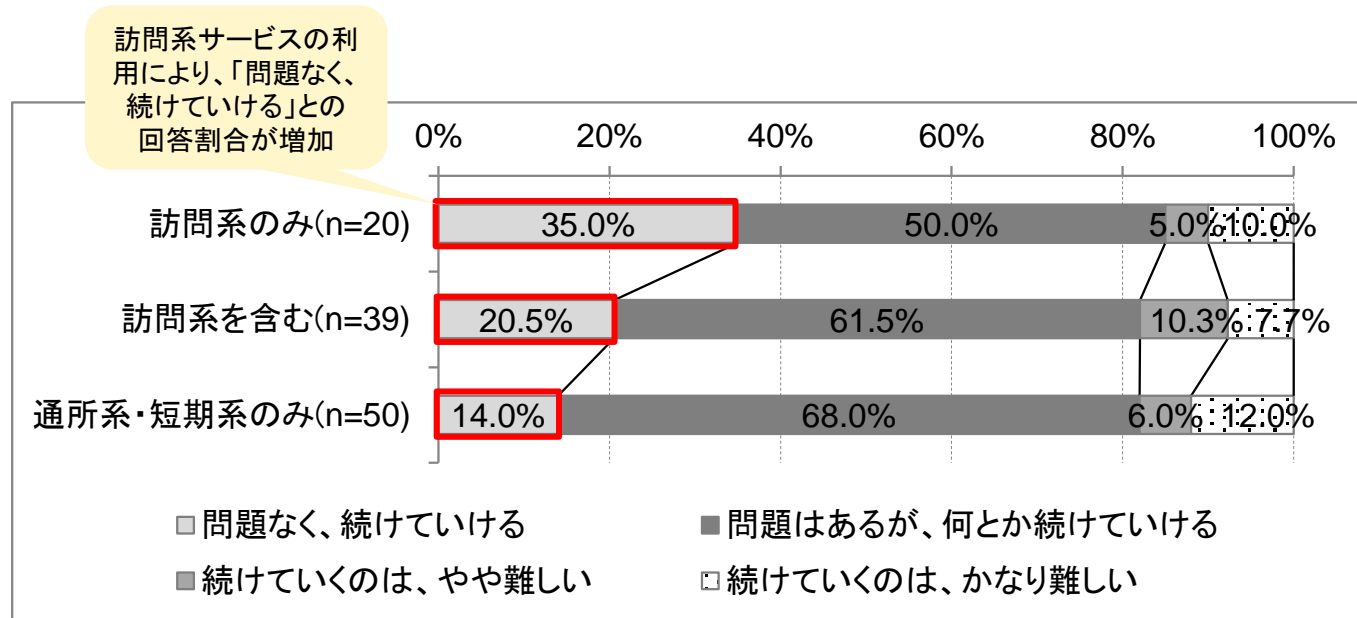
出典：在宅介護実態調査(試行)

分析例4：どのようなサービス利用が、就労の継続に向けた問題軽減に寄与している？

「訪問系サービスの利用者」では、介護者が就労を「問題なく、続けていける」との回答割合が高い

- 「サービス利用の組み合わせ」と「介護者の就労継続の可否に係る意識」の関係をみると、「訪問系のみ」⇒「訪問系を含む」⇒「通所系・短期系」の順番で、徐々に「問題なく、続けていける」の割合が減少する傾向がみられた。
- ただし、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合計した割合については、サービス利用の組み合わせごとに大きな違いは見られなかった。

図表 サービス利用回数と主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (要介護2以上、パート+フルタイム就労)



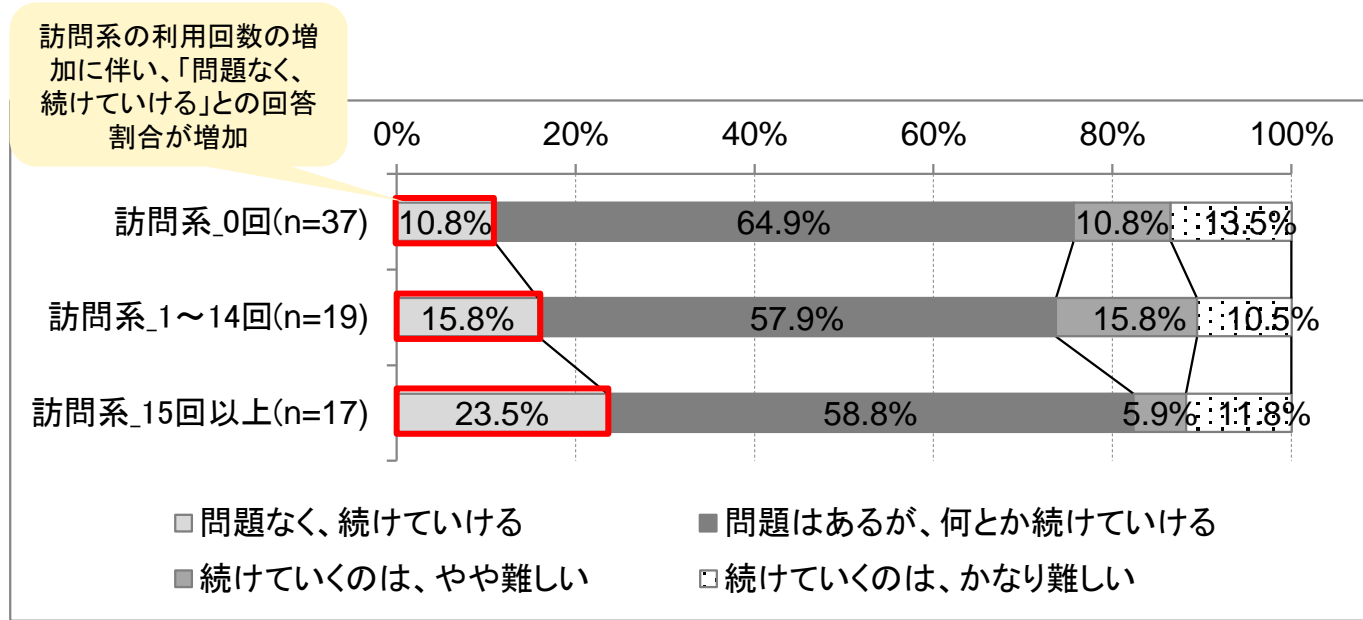
出典：在宅介護実態調査(試行)

分析例5 : 頻回な「訪問系」サービスの利用は、就労の継続に向けた問題軽減に寄与しているか？

「訪問回数の増加」に伴い、介護者が就労を「問題なく、続けていける」との回答割合が増加

- 「訪問系サービスの利用回数」と「介護者の就労継続の可否に係る意識」の関係をみると、訪問系サービスの利用回数の増加に伴い、徐々に「問題なく、続けていける」の割合が高まる傾向がみられた。
- ただし、「続けていくのは、かなり難しい」の割合については、大きな違いは見られなかった。

図表 サービス利用の組み合わせと主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (要介護2以上、フルタイム就労のみ)



出典: 在宅介護実態調査(試行)